



調印式の様子

「災害時物資供給協定書」調印式

8月15日(金)、(株)大屋と「災害時物資供給協定書」の調印式が行われました。

同協定は災害発生時に、同社が経営する「ドラッグストアmac」から、町が必要とする生活必需品や医薬品などの物資を選定し、供給してもらうことを目的としたものです。

同社の伊藤慎太郎社長は、「日ごろから地域の皆さんにご利用いただいております、何かお役に立てることはないかと考えていた。今回、町からの相談を受け、すぐに協力を決めた。津波が発生した場合、道路の寸断なども懸念されるが、可能な限り安定した物資供給に努めていきたい」と話しました。



発表会の様子

「誰一人取り残さない、これからも暮らしたくなる町」発表会

8月28日(木)、第7回Minecraftカップへの応募をめざし、地域の小学生による作品「誰一人取り残さない、これからも暮らしたくなる町」の発表会が行われました。この作品は、黒潮町の津波避難タワーを元にして、子どもたち自身が考え作成したものです。

参加を呼びかけた美土路光さんは、「大会のテーマを聞いて、黒潮町の津波避難タワーがぴったりだと思った。子どもたちがこの経験を通じて、自分たちの夢や目標を広げてくれたらうれしい」と話しました。

子どもらは、「絶対に1位を取りたい」「プログラミングでゲームやロボットを作って世界に広めたい」など、夢や意気込みを語りました。



成果発表会の様子

大阪経済大学国際共創学部ローカル・リサーチ

令和6年、大阪経済大学と黒潮町は包括連携協定を締結しました。本協定は、黒潮町でのフィールドワークを通じて、学生が高知県内の自治体・企業・地元高校生との関係を築きながら地域の現状を知り、自らの暮らす地域の課題として共感し、解決策を考えることを目的としています。

今回のローカル・リサーチには2年生15名が訪れました。本プログラムは、9月9日(火)から9月12日(金)までの4日間にわたり実施され、最終日の9月12日(金)に成果発表会が行われました。学生らは、自身の地元と比較しながら黒潮町の課題を捉え、AIの活用や外国人対応、避難訓練だけでなく避難後の生活に目を向けるなど、さまざまな観点から地域の改善に向けた提案を行いました。



おみこしを担ぐ上川口青壮年団

白石大祭 再開2年目

昨年、5年ぶりに再開した白石大祭。今年は9月13日(土)に前夜祭、14日(日)に本祭が開催されました。前夜祭では、上川口くじら公園にて幡多舞人による踊りやカラオケ大会、ビンゴ大会、花火大会などが行われ、多くの来場者で賑わいました。

本祭では、上川口青壮年団らによっておみこしが担がれました。おみこしを船に乗せ、来場者とともに海上パレードが行われました。また、漁港ではお菓子投げも行われ、会場は一層の盛り上がりを見せました。

来場者は、「前夜祭も本祭も参加した。普段はなかなか船に乗る機会がないので、子どもがパレードの船に乗れて、とてもいい思い出になった」と話しました。